

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572308567		
法人名	株式会社 日本ケアシステム		
事業所名	グループホーム しらさぎ苑		
所在地	秋田県潟上市飯田川飯塚字塞ノ神143-3		
自己評価作成日	平成23年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成23年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

しらさぎ苑では、職員にたいして、認知症という病気だけを見るのではなく、認知症の人を見るようにと普段から徹底して指導しております。又、御家族様、地域の方々とも強力な繋がりがあり、地域行事他、町内会総会にも常に参加し活動しております。地域密着型にふさわしい施設作り、そして、心が変われば ケアが変わる ケアが変われば 習慣が変わる 習慣が変われば 施設が変わる。介護者の介護による入居者のための介護。頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体が大きく、数多くの医療・福祉関連の事業を展開している法人であり、バックアップ体制も整備され、利用される方には安心できる事業所です。また、地域との連携にも大変優れ、地域の一員としての相互協力が培われ、誰もが気軽に声をかけ、お茶を共にすることのできる地域に根差した事業所です。職員異動によって、これまでの理念が新たのものに変わり、また、ケア方針にも大きな変化があり、雰囲気以前にも増して、明るく親しみやすい家庭的なものに変化しているように感じられました。利用者も家族も、職員も、そして、事業所を支える地域も、「何でも言いたいことが言える、言い合える」事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	絵に描いたもちにならないような理念を掲げ、毎朝、朝礼での唱和。誰にでも目の届く場所に貼り、共有しております。	管理者の異動に伴い、新たな理念が作られ、「住み慣れた環境でその人らしく、楽しく安心できる生活を」送れるように、掲示すると共に朝礼で毎日違う職員から話してもらい、共有し、日々の生活で実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議はもちろん、地域夏祭り、スクールガードの参加等で交流をしております。又、地域の方が、野菜を持参したり、苑周辺の立ち木を手入れしたりもしております。	住民の団結が強い地域で、町内の一員として、講演や相談に応じ、子供たちの見守り、地域行事への参加、事業所行事への招待、協力、参加、助言等、常に多くの関わりを持ち、気軽に立ち寄っていただく等の交流が観られます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	町内会の総会に参加し、地域の人と交流し、グループホームの理解や認知症の理解、他には、介護相談、福祉分野の相談もあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、定例報告の他、毎月の課題、改善状況、活動写真に説明も踏まえている。又、地域や、家族からのアドバイスや質問等にもその都度、対応しております。	町内会長や民生委員、家族、利用者の参加があり、大事な町の一員として地域や家族の提案や協力・助言を得、忌憚の無い意見交換が活発に行われ、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接、市役所窓口に出向き、運営推進会議の報告や苑の実情を伝え、その都度、アドバイスや地域の現状を聞き関係を築いております。	運営推進会議に市の職員の参加がないため、報告時に助言・指導をいただいたり、空床状況の報告や制度上の疑問等を質問され、回答をいただく等、連携をとられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(玄関の鍵は夜間のみ)職員には、認知症(行動障害)を正しく理解して頂き、身体拘束をしないように取り組んでおります。	身体拘束をしてはならないことを十分に理解しており、行動障害に対する原因を探り、拘束をしないケアが行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の経験と知識を職員に伝え、普段からの生活でしっかり観察し、虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際、長くに入居されていた方が成年後見人制度の対象されていた為、職員も関心があり、日常生活で自然と理解する事ができました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	後々のトラブル防止も含め、利用契約時は慎重かつ丁寧に説明し、理解を得ながら進めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時等、ご家族様が来苑された時は必ず伺っている。又、玄関に意見箱設置し役にたっております。	仕事帰りや休日に事業所への来訪も多く、家族との信頼関係が構築され、意見が言い出しやすい雰囲気作りが行われ、運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼やケアカンファレンス、日常生活の中で意見や提案を取り入れ、活動しております。	遠慮なく話ができる雰囲気があり、意見や提案は運営に反映されています。また、「コミュニケーションチェックシート」や「業務点検のためのセルフチェックリスト」等、独自のアンケート用紙を使用して面談や話し合いで改善に結び付けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員の評価を実施している。又、職員に対し年に数回個別面接し、沢山の情報を得る事で職場改善に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の経験と知識を介護現場を通じて職員にOJT施行している。苑内研修は個々にテーマを決め、積極的に活動しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、同業者との会議に参加し、互いの活動や意見交換しサービスの向上、キャリアアップしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前の段階から、ご本人や御家族様のご意向を聞き、入居時からすぐ安心して生活できるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から沢山の情報を頂き、御家族様の不安に対してしっかりと聴き、その都度対応し信頼関係を築いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当苑では家族同様の立場で生活を共にしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の面会時だけでなく、苑便り、定期的な電話連絡等で、ご本人様の状況や日々の変化を伝え、確認しながら利用者様を支えて行ける体制作りをしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟、知人、親戚が遠慮なく面会や外出できる体制を整えている。又、馴染みの場所がある場合は外出レク等を活用し出掛けしております。	これまで利用していた施設への訪問、公園、買い物、病院等の利用や友人等の訪問など、これまでの関係が継続できるように支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段から利用者同士のかかわりを多くし、その都度職員が間に入り、上手く時間を共有しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も利用者様の御家族が苑に足を運んでくださったり、電話等でもその後の経過や相談でつながっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や御家族から聴取し、ケアプラン作成している。聴取困難な場合でも、その人らしさを生かし検討しております。	何でも言い合える関係作りが行われており、日々の生活の中で、思いや意向の把握に努め、また、表情や仕草でキャッチしたり、家族等からの情報をもとに利用者本位に検討をされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御家族様からバックグラウンドアセスメントし、貴重な情報を提供していただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル表、ノート、排泄チェック表、申し送りノート等活用し、ケアプランや毎日の状態の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で、職員が気付いた事や、工夫した事を必要な関係者と情報を共有し、現状に即したケアプランを作成しております。	担当制をとられ、モニタリングが1月に1回行われている他、担当、本人、家族、介護支援専門員で、状態、状況等の話し合いや報告が行われ、毎月のカンファレンスで他の職員の意見も反映して介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のノートに毎日の状態や取り組み、発見等を記載している。又、ケアの技法も職員間で共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事時は、住民の代表として、町内会長、民生委員の方が代表で来苑され、誘いを入れてくれる。こちらとしても大変心強く、入居者様も喜んでおります。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当苑が所属している医療法人は、内科、整形、眼科、歯科、薬局と幅広く有り、受診に関しては完璧な医療体制が整っております。	これまでのかかりつけ医や歯科医、薬局等の利用が出来、受診時は付き添い、受診前後の報告も家族や嘱託医に行われています。また、医療法人経営の事業所であり、希望に応じた支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護が来苑、入居者様の状態を把握しアドバイスや相談等で支援していただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当法人は入院設備も可能な為、顔なじみのスタッフがおり、入居者様が万が一入院になった場合でも安心して治療を受けることができます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、御家族様には当ホームで重度化した場合、ターミナルケアの指針を説明し、理解を得て頂いている。又、当苑では、その人らしさを最期まで尊重しケアにあたっております。	指針が作成されており、医師からの十分な説明と話し合いが行われ、本人・家族等の納得のできる対応が行われています。また、職員も方針を共有され、母体法人の支援体制も整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練後に消防隊員からアドバイスの対応方法を聞いたり、苑内研修等で初期対応や観察、状況判断を養い突然の変化に慌てないように心掛けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を施行し、地域からの訓練参加も得ている。又、突然の天災に対して、地域との協力体制も築いております。	運営推進会議を通じて、災害対策への助言や提案をいただき、また、地域の方々の参加を得て、避難訓練が行われています。さらに、水害に対する避難経路・場所の確保など、協力体制を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当苑では、その人らしく穏やかに暮らしていただく中で、個々に対して人格を尊重し、精神的にもバックアップしております。	一人の人として、尊厳を持って接し、誇りやプライバシーを損ねるような言動は観られませんでした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	苑内の生活は、ほぼ全般ですが利用者様にお任せしております。又、自己決定出来ない場合でも常に寄り添い、支援し気持ちを引き出しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当苑では、利用者様の日々状態に合わせ臨機応変にケアにあたり、その人らしい暮らしが出来るように希望にそって支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	当苑では、化粧をしている方もいれば洋服選びに毎朝時間をかけていられる方もおります。又、認知症が強く自己表現が出来ない方に対しては、毎日同じ感じの服にならないように注意して楽しんで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時の盛り付けや、簡単な手作業、食器洗い、おぼん拭き、テーブル拭き等、個々で役割が有り毎日無理の無い程度で頑張っております。	好みのメニューを取り入れ、下ごしらえや盛り付け等が職員と共に行われ、食事中も話題にされ、さらに、本人の持っている能力を最大限に活かせるような声掛けが行われ、楽しみながら食事を摂られている様子が窺えました。また、笑顔で食後の片付け等のお手伝いも拝見できました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当苑では給食委員会があり、個々の状態にあった栄養バランスを考え楽しみのある食を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食毎の口腔洗浄、夜間の洗浄剤、嚥下咀嚼能力の確認を毎日施行しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時はリハビリパンツにパットの方が大半を占めておりましたが、定時毎のトイレ誘導にとらわれず、その日の状態や言動をしっかりと観察し、時々失敗はありますが脱オムツを心がけ頑張っております。	紙パンツから布パンツに変更をされ、排泄パターンや言動から、いち早く察知し、トイレ誘導によって失禁の少ない援助が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のチェック体制を密にし、食事提供時には個々に工夫して便秘対策をしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては、希望時間や体調と相談しながら形にとらわれることなく、臨機応変に対応させてもらっております。	入浴剤の使用や他の利用者とは異なるシャンプーの使用で週に2回以上の入浴を楽しみなもの出来るように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝たい時は寝て、起きていたい時は起きていただき、形にとらわれずに生活をしていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その日、その日の体調を観察し、副作用はないか？体が薬に負けていないか常に確認しております。又、医療関係者とは24時間連絡体制を整えております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族様の協力を得て、バックグラウンドアセスメントし、昔からの習慣や役割を聞き、無理の無い範囲内で普段の生活に取り入れております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	普段から、買い物、苑外散歩、外出レク等を取り入れており、ストレス発散に努めております。又、時々ですが、御家族様と一緒に病院受診する場合があります。	散歩や日向ぼっこ、敷地内での食事やレクリエーション、畑づくり等が日常的に行われ、家族や地域の方々の参加も得ています。また、地域の行事への参加やドライブ、買い物、施設訪問、なべっこ等で普段行けない場所にも出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当苑では、苑内での使い道はありませんが、個々に所持金が有り、外出時には持参していただいております。御家族様には必ず了解を得ております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はもちろん、電話もして入居者様には安心していただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行動障害が出現しないように、快適で穏やかな空間作りを心掛けております。又、季節感を意識した飾り物等を取り入れております。	キッチンや物置スペースを中央に、廊下を隔ててその周囲に居間、事務所、各居室が配置されており、要所に椅子が置かれ、思い思いの場所で過ごせるように工夫をされています。また、臭いや光、音による行動障害に配慮され、心穏やかに過ごせる空間作りが行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	当苑では、1人ひとりが思い思いに過ごせることができるように、お気に入りの場所を提供させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家庭で使用していた、おきにいいの品や、好みの物を持参していただき、居心地良く生活できるように工夫しております。	これまで使い慣れた小物や家族の写真等が持ち込まれ、仏壇のように毎日水をあげ手を合わせる方や携帯電話を持ち、家族との会話を楽しみにされる方等、それぞれが居心地良く過ごせるように配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は常に危険を管理し、入居者様が安心して安全な生活が出来るように、個々の状態を把握しバックアップしております。		